

編集 後記

早いもので震災から3ヶ月が過ぎますが、放射線被ばく問題は解決の糸口が見えずまさに泥沼の様相を呈しています。本誌四月号に理事長名で掲載された「東日本大震災への対応について一被災現場および避難生活において求められる支援」という提言の中で指摘された課題の一つである「放射線被ばくによる健康影響に関する正しい知識の提供」が十分に実行できておらず、巷には不安を煽る情報が溢れています。また、同提言ではチェルノブイリ原発事故の「最大の危険因子は住民の被ばくへの不安」とし、「特に小さな子供を持つ母親に対して」の情報提供の重要性も述べていますが、このような指摘にもかかわらず、残念ながら世の中は今まさにそのチェルノブイリどおりの展開となっています。

さて、今月号では放射線災害への取り組みと認識についての質問票調査の結果が資料として掲載されています。この調査では保健師においても「知識不足」が不安に大きく影響するという結果が認められました。また、研究ノートとして、インターネット上の健康情報を正しく活用する能力を図る尺度開発についての論文も掲載されており、まさに時宜に合った号となりました。

正しい知識をより多くの人々に伝え、理解してもらうことが公衆衛生の永遠の課題の一つであることをあらためて思い知る今日この頃ですが、読者の方々にはぜひとも放射線に関する正しい知識の提供を公衆衛生活動として実践していただきたいものです。(佐藤敏彦)

次号予告 (第58巻・第6号)

原著

- 病棟に勤務する看護職の就業継続意向と看護実践環境との関連：The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index (PES-NWI) 日本語版の応用……………緒方泰子, 他
 特定高齢者に対する運動及び栄養指導の包括的支援による介護予防効果の検証……………深作貴子, 他
 女性医師の就労に影響を与える因子の検討……………野村恭子, 他
 孤立高齢者におけるソーシャルサポートの利用可能性と心理的健康：同居者の有無と性別による差異……………小林江里香, 他

資料

- 市町村における環境政策への市民参加の実態調査パブリック・コメント実施状況と市民公募委員の選任を指標として……………江口 尚, 他

連載

- 健康の社会的決定要因(14)……………村田千代栄, 他
 ヘルスサービスリサーチ(11)……………原野 悟
 社会と健康を科学するパブリックヘルス(7)……………猪飼 宏, 他